

総務常任委員会行政視察（概要）

1 視察日

平成29年5月9日（火）～10日（水）

2 視察項目（視察都市）

- ・ 公共施設再配置推進事業の取り組みについて（神奈川県秦野市）
- ・ コーチングプログラムの取り組みについて（神奈川県小田原市）

3 参加委員

委員長：河本光宏、副委員長：下野 巖

委員：桂 睦子、岩本 守、松本泰典、友次通憲、上田嘉夫

4 調査概要

秦野市では、公共施設の更新問題に対応するため、人口減少と超高齢化が進む中でも必要性の高いサービスを将来にわたり持続可能なものとする「公共施設の再配置」に取り組んでおり、平成21年に「秦野市公共施設白書」、平成22年に「秦野市公共施設の再配置に関する方針」、平成23年に「秦野市公共施設再配置計画」を策定し、PPP（公民連携）等による公共施設再配置事業を推進している。また、市民に対しては、常に新しい情報を提供することを心がけ、公共施設白書の改訂を行うとともに、行政にとって悪い情報も包み隠さず公表することで、一概にサービス低下につながるものではないことをアピールすることにも取り組んでいる。

小田原市では、平成24年から3年間の計画で、職員のやる気、自発的な行動を促すためのコミュニケーションスキルである「コーチングプログラム」の研修を導入した。このプログラムは、主に民間企業で取り入れられており、小田原市のような行政規模の市では、初めて取り組まれた事例である。研修には延べ612人が受講し、プログラム終了後も、参加者に対する意識調査が行われ、また、受講者によるOCA（意識改革推進チーム）が結成されるなど、コーチングスキルを活用し、仕事に対するモチベーションの向上が図られている。



5 委員長所感

秦野市の取り組みにおいては、特に公共施設白書や個別施設計画が重要視されており、白書では情報を分析し、情報をもとに議論することが重要であるとのことであった。また、個別施設計画については、総合管理計画の中身以上に、個別の施設計画を作り、実行に移すことが重要とされた。こうした取り組みは、今後の茨木市においても参考にすべき点と思われた。

小田原市では、コーチングプログラム導入による意識の改革が、他の人にも影響を及ぼすことが強調されていた。茨木市でも、今後さらに職員間や部門間での連携、市民との協働の取り組みが進むものと考えられ、これまで以上にコミュニケーションが重要となり、コーチングのようなスキルがより求められるものと考えられ、小田原市の取り組みは参考になるものと思われた。